

第8回全国中学生ラグビーフットボール大会に協賛

強靱な身体づくりに、おもちをアピール！

全国餅工業協同組合は、2017(平成29)年9月16日(土)~18日(月・祝)に茨城県水戸市で行われた「太陽生命カップ 2017 第8回全国中学生ラグビーフットボール大会」に協賛し、おもちのさまざまな魅力を伝え、包装餅を用いたカーボローディングを推奨するプロモーション活動を実施しました。



2019年ワールドカップに向けて、注目度は急上昇！

ラグビーと言えば、2015年ワールドカップで強豪南アフリカを破った大金星や五郎丸選手らの活躍が記憶に新しいところです。今回協賛する大会は、2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップに向けたU15(15歳以下)世代の選手育成を目的とした大会であり、全国47都道府県のラグビーフットボール協会に登録する中学生プレイヤーによって構成されるチームの全国大会です。関東・関西・九州の3地域で予選大会や選考試合が行われ、学校課外活動の中学校チーム8チーム、ラグビースクール(ジュニアクラブ)8チーム、都道府県の女子代表8チームの合計24チームが全国大会に進出。それぞれのカテゴリーで日本一が競われます。



大会初日、メイン会場となるケーズデンキスタジアム水戸(水戸市立競技場)に全国各地から大型バスが到着しました。降り立った選手たちは、こちらが目を疑うほどの屈強な体格で、とても中学生とは思えないほどです。会場前に特設テントを構える全餅工のブースやおもち大明神を見て興味深そうに近づいてきた選手たちに、おもちがカーボローディングに適した食品であることを伝えると真剣な眼差しでパネルやカーボ漫画に目を走らせていました。



アンチドーピングは餅カーボの追い風！

大会に先立って行われた代表者会議(監督会議)では、実行委員側から大会規則の確認とともにアンチドーピング意識を徹底するようにと通達されました。選手たちの身体作りのためにサプリメントなどに頼り過ぎることなく、自然の食品からの栄養補給が大切であることが重ねて強調されます。その点でいえば、国内産水稲もち米100%使用の包装餅はまさに推奨される栄養補給源のひとつであり、今後さらに日常の食生活におもちを取り入れて頂くようにアピールを行う上でも大きな追い風だと実感しました。



今回、未来の消費を担う子どもたちに“スポーツとお餅の深い関係”を伝えて、スポーツの前後やカーボローディングの実践にお餅が適した食べ物であることを意識づけるために切り餅セット(カーボローディング漫画入り切り餅パック、ポケットティッシュ、リーフレット等)を各チームへ登録選手人数分進呈しました。

また、おもち大明神のおみくじをひいて大吉が出れば切り餅セットをプレゼント。さらに【#おもちの日】や【#おもち大明神】などのキーワードをつけて、写真とともにSNSに投稿した方にも切り餅セットをプレゼントする施策を実施しました。



本大会と同期間にケーズデンキスタジアム水戸では「みとオータムフェスティバル2017」が開催され、スポーツ用品販売会や地産グルメフェア、スペシャルライブなども行われたことから、全餅エブースにも多くの人々に立ち寄って頂きました。

会場内では、水戸特産の餅菓子である「吉原殿中」も実演販売されるなど、お餅の魅力やおいしさをアピールする絶好の機会となりました。



全餅工では、スポーツに勤しむ若者たちをはじめ保護者や指導者の皆さまに向けて、お餅がスポーツ時の栄養補給やカーボローディングの実践に適した食品であることを伝え、餅の機能性や国内産水稲もち米100%使用の包装餅の魅力を、より多くの方々に向けて一層アピールしていくため、今後もスポーツ振興とプロモーション活動を推進してまいります。